



アメリカでは「どうせ税金で政府にもっていかれるなら、自分が支持している団体にあげよう」というのが、寄付文化を支える根本的な考え方で、個人だけでなく、企業でも同じです。寄付や社会貢献に使った金額は、会社の経費として、法人税の控除につながります。また、寄付活動は節税と同時に会社のイメージアップにもつながるので、メリットが多いと思われています。そんなに金持ちでもない人も寄付という行為は身近にあるようです。その背景にあるのは税制でして、納税者全員が確定申告する義務があります。申告する際、様々な控除があり、寄付は控除の大きな対象になります。年収が上がれば上がるほど、高い税率がかけられる仕組みなので、ハリウッド・スター、スポーツ選手、企業経営者などの高額所得者は半端でない税金を収めることとなります。ですが、寄付による控除があると、納税額も格段に下がりますので、寄付が多くなる訳です。

アメリカの大会社の社長たちが、なぜあんなにも多額の給料を得るのか。それは寄付をするためだとも言います。アメリカでは個人の寄付金が年間 20 兆円超、日本では 2,000 億円超でありますので、約 100 分の 1 です。株価に匹敵します。

アメリカの昨年 2017 年の寄付金のトップは、パークシャー・ハサウェイ会長のウォーレン・バフェットで 25 億ドル、日本円で約 3,150 億円です。個人が国を超えています。それから、社長の所得が、アメリカと日本では 10 倍近く違います。アメリカの社長は所得の 95% を寄付するといえます。ですから、前述の金額の差になる訳です。それに、社長に限らず、個人納税者もその 30% を寄付します。日本では 2.2%、社会の仕組み、国民意識が全然違うようです。我々日本人は、自分が他人に尽くすことが「良いこと＝善」だと考えており、何のために寄付するんだろうと思いがちです。それは、寄付によって奉仕はされますが、相手の顔がまったく見えない、誰に奉仕しているのかまったく判らない、姿の見えない人に奉仕をするという寄付は奉仕ではないと考えるため、寄付という行為には、ためらいが生じます。

しかし、人は会ったことも無い人から、奉仕を受けていることが以外と多いことを、皆さんは判っておられます。「おかげ様で」という言葉に表わされているように、食べ物一つとっても「作る人」「運ぶ人」「売る人」この人たちの顔が判らなくても食べることができます。ひょっとしたら、貧困の国の人やその国の水で作られているかもしれません。そう思うと、知らない人達への恩返しと思ってその人達への「寄付」もできるのではないのでしょうか。

日本では、ロータリー財団の恩恵が薄いとはいえ、今世界のロータリー活動を支えているのはロータリー財団です。ですから、私たちはそれを少しでも協力していく必要があると思います。会員の皆様にロータリー財団への寄付のご協力をお願い申し上げまして、本日の会長挨拶と致します。



## その他委員会報告

### ◎国際奉仕委員会（福富孝弘委員長）

いよいよ明後日から、15日（木）～18日（日）に犬山ロータリーメンバー18名で台湾草屯 RC に表敬訪問に行ってきます。

1日目の、表敬訪問の例会に於いて犬山文庫を小学校に寄付を行います。贈呈式には校長先生も参加予定です。

2日目の行き先は、色々と検討しましたが東海岸の方に草屯 RC の方々25名を含め楽しく行ってきます。

15日朝 6時 40分の電車での出発しますので、メーカーチャップになりませんが皆様の見送りをお願いします。



## 地区大会報告

### ◎第1日目（日比野 万喜男会長）



それでは、先週末 11月 10日（土）、11日（日）に蒲郡 RC がホストクラブとして開催されました地区大会の報告を、1日目は少し長くなりますが私の方から、2日目は副幹事 鈴木一成さんにしてもらいます。

第1日目は、本会議が午前 10時から始まりました。RI 会長代理夫妻の入場、開会の挨拶があり、続いて RI 会長代理ご夫妻、特別出席者、出席クラブ紹介がありましたが、例年とは違って、全て村井ガバナーが行ないました。

その後、村井ガバナーの主催者挨拶があり、ガバナーは、

1.WFF のお礼

2.8月 17日の常滑 RC・知多 RC から始まり、11月

1日の自クラブまでのガバナー公式訪問の振り返り

3.自らの地区方針「あなたの街でロータリー、あなたの街からロータリー」を述べられ、今回の地区大会が、その方針に沿って名古屋ではなくホストクラブのある蒲郡で行なわれることに、そして蒲郡 RC の理解に感謝

4.現在 RI と日本のロータリーが、かい離していると言われるが、奉仕の心、いわゆる思いやりの心は 1つであり、それを実践することが必要といわれ、奉仕の理念を学んだら、皆さんの街で実践しましょうと結ばれました。

次に、田中 RI 会長代理の挨拶がありました。鹿児島県人らしく、あったかな口調でのやさしい挨拶でした。

続いて、三木 RI 理事の挨拶があり、RI 理事は、公共イメージの向上はロータリアン 1人 1人がロータリ

一の知識を学び、1人1人がロータリーの伝道者であるということが必要であると述べられました。

11時から、地区大会議事（報告事項）として

- ・[第1号]地区大会関連委員会報告のうち
- ①地区大会登録委員会報告を鈴木地区大会登録委員長が、
- ②地区大会信任状資格審査委員会報告を千田地区大会信任状資格審査委員長が、
- ・[第2号]地区指名委員会報告を加藤地区指名委員長が、
- ・[第3号]地区審議会報告を江崎地区審議会副議長が、それぞれ報告されました。

地区大会議事（決議事項）として、村井ガバナーが議長を務められ、

- ・[第1号議案]ガバナーノミニ選任方法採択の件が、
- ・[第2号議案]副ガバナー選任方法の件が、
- ・[第3号議案]2019-22年度地区ロータリー財団監査委員選任の件が、
- ・[第4号議案]地区大会決議に関する件が、それぞれ議決承認されました。

午前の本会議は以上で終了し、食事休憩に入りました。

午後からは0時45分から青少年・学友フォーラムが開催されました。このフォーラムは例年には無く、ガバナーの思いで行なわれたもので、犬山RCの岡田雅隆地区青少年奉仕委員長が担当し、お骨折りされた催しです。

最初に犬山RCの岡田地区青少年奉仕委員長が開会挨拶され、ロータリアンの方に地区でのロータリーの青少年に対する事業の内容を理解いただき、認識を高めていただきたいと述べられました。

続いて、村井ガバナーの挨拶があり、

- 1.フォーラムは、青少年の発表の場・報告の場である
- 2.青少年奉仕は地味ではあるが、将来のために必要である
- 3.会員の皆さんには奉仕を伝えられる人になって欲しいという願いを持っている

と述べられました。

続いて、「これからの青少年奉仕と青少年学友」のテーマで田中正規パストガバナーによる基調演説があり、パストガバナーは

- 1.当地区は、日本最大の会員数を誇るものの、若い会員、女性会員が少ないなどの基本情報のこと
- 2.米山記念奨学、インターアクト、RYLA、ローターアクト、青少年交換の各委員会の位置付けのことを詳しく説明され、青少年の皆さんと共に手を取り合ってロータリーの活動をしていきましょう。

と結ばれました。

そのあと地区各委員会から委員長及び青少年による体験報告がありました。

最初に、地区米山記念奨学委員会の報告があり、山田委員長より

- 1.奨学生の選び方は、学生の経済的な困窮を救うためだけでなく、ロータリーの活動を理解し、手を組ん

で一緒に活動していただける人になっている

- 2.WFFで奨学生同志の友情がふくらんだとの話があり、奨学生の韓国の宋君からは
- 1.奨学生になって、ロータリーから支援を受け、自分の夢に近づいたと思っている。
- 2.カウンセラーの援助に感謝しており、不安なく奉仕の理念を学べ、今は幸せに生活できている。

との報告がありました。

- 2番目に地区インターアクト委員会の報告があり、誉高校の桐林君から
- 1.インターアクト年次大会を担当したが、自分達が計画し、自分達ができる最大限のことができた。他の皆さんに手伝ってもらって、皆さんにも活動を知ってもらえた。
- 2.個人的には、人前で話すことができ、挨拶できたことが思い出になり、良い経験をさせていただいた。

との報告がありました。

その後、海外派遣研修のことを千種高校の植田さん、WFFでの活動のことを桜花学園の加藤さんより報告がありました。

- 3番目に地区RYLA委員会の報告があり、金山委員長より

- 1.RYLAとは、リーダー育成プログラムで、ロータリーが実施する若者たちのための研修プログラムです。

との説明があり、愛知淑徳大学の田尾さんからは

- 1.ジャパンライラでの3泊4日での研修では、「西遊記」からリーダーを読み取ることを話し合った。結果が大事ではなく、プロセスが大事であることを学んだ。

との報告がありました。

- 4番目に地区ローターアクト委員会の報告があり、田原RC所属の藤井君から

- 1.活動は、地域社会のお祭りのボランティアとか、清掃、募金、などを行っている。
- 2.成果としては、「世界中に交友関係が広がられる」「様々な経験ができる」「自分自身のスキルアップ」「ロータリアンから様々な知識が得られる」

との報告がありましたが、ローターアクトも会員減少に悩んでおり、報告内容が、会員勧誘のための呼びかけのように感じられました。

最後に地区青少年交換委員会の9名の帰国した青少年交換学生から報告がありました。

そのうちの1人、フランスに留学した原さんからは、いろいろなホストファミリーと関係ができたことが財産になったが、つらかったことが多かったというお話しをされました。彼女のファミリーは、70代後半の老夫婦で、英語が話せない。原さんは、フランス語がまだまだで、まず言葉でのコミュニケーションに苦しんだ。その上、価値観の違い、性格の違い、特にマザーは几帳面で、物が置いてある場所がいつもと違うと機嫌が悪くなり、原さんと言い争いになったこともあったということです。学校でも孤独感にさいなまれ、本

当に苦しみ、悩んだようでした。

しかし、ホストクラブが、自分の得意なバイオリンのコンサートの企画をしてくれ、それが新聞にも載り、大変うれしく前向きになったようです。また、同じ交換学生がいろいろなことに積極的であり、その行動を見て、自分も頑張ろうと思うようになって、つらさを乗り切れたということでした。

他の8人の交換学生も、ホストファミリーのことを話す子が多く、学校のこと、言語、生活習慣、食事、遊びなど、いろいろな体験を話してくれました。その中で、共通するのは、楽しい時、つらい時、その時そこにいるのは、仲間である同じ交換学生のように。彼らは、貴重な体験と共に、海外での「生涯の友」を得ているようにも思われました。

以上の総評を田中 RI 会長代理が行なわれ、

1. 斎藤パストガバナーが米山理事長に就任され、米山奨学生が WFF での活動は素晴らしいと思った。
2. 各委員会が支援する若者の活動が活発であることに感心した。

と述べられ、その後閉会の挨拶があり、フォーラムが終了しました。

その後、場所を蒲郡クラシックホテルに移し、午後6時より RI 会長代理ご夫妻 歓迎晩餐会が開催され、村井ガバナーの挨拶から始まりました。田中 RI 会長代理挨拶の時、名前は明確にしないといけないと言われ、やおら、ポケットからメモを出され、午後からの青少年・学友フォーラムの担当委員長の「岡田雅隆さん」と名前を呼ばれ、フォーラムの素晴らしさと成功を称えられました。フォーラムの総評では、的外れな事を言われるなど思っていました、ここにとっておいたのかと、改めて、田中 RI 会長代理を見直すと共に、犬山 RC 会員が、素晴らしいことをしていただいたと、会長として、多分、幹事も同じだと思いますが、誇らしく思いました。「岡田さん、本当にありがとうございました。そして、本当にご苦労様でした。」

以上、地区大会第1日目の報告を終わります。

## ◎第2日目（鈴木 一成副幹事）



2日目の報告をいたします。

2日目参加のメンバーと共に7時37分発の特急に乗車し、途中金山から JR に乗り換え蒲郡市民会館に向かい現地集合のメンバーと合流しました。会場では真ん中の後方に席を陣取りまして開会に備えました。

午前10時より三味線とダンスのオープニングパフォーマンスの後、点鐘、物故会員の追悼を行いました。

最初に、蒲郡ロータリークラブ会長より歓迎の挨拶、RI 会長代理の紹介がなされました。その後、村井ガバナーより挨拶があり、2760 地区の活動方針「あなたの街でロータリーを、あなたの街からロータリーを」のテーマが、この蒲郡の地で開催する地区大会と結びつくものになっているとのお言葉がありました。

また後の田中 RI 会長代理の挨拶では冒頭で前日開催されました岡田雅隆委員長率います地区青少年奉仕委員会による青少年・学友フォーラムについて、大変素晴らしい活動をされているとの報告がありました。

現況報告としましては現在世界のロータリーは120万人程度で15万人入会しても15万人退会しているという状況、魅力ある会にして退会者を減らし日本では5,000人の会員増強を目指したいとの報告がございました。また、会報誌「ロータリーの友」をしっかり読み込んで今年の RI のテーマである「インスピレーションになろう」を学んでいただきたいとの報告がございました。

昼休みを挟み午後からは、藤ノ花女子高等学校レッドペッパーによる華やかなマーチングバンドのパフォーマンスの後、大村愛知県知事、稲葉蒲郡市長に教育支援として目録の贈呈が行われました。次に2018-19年度に関する表彰では在籍50年表彰犬山ロータリークラブ平林米司さんが登壇され、感謝状贈呈が盛大に行われました。

その後、伊藤靖佑ガバナーエレクトの紹介と挨拶とガバナーノミニーの岡部努さんの紹介と挨拶がありました。また次年度地区大会ホストクラブ名古屋清須ロータリークラブから挨拶がありました。最後に小説家の浅田次郎氏による「日本人の美学」の記念講演が行われ終了となりました。

参加されましたメンバーの皆様大変お疲れ様でした。



地区大会の受付で RI から送られた「End Polio Now」の感謝状をいただきました。

End Polio Now: 「歴史をつくるカウントダウン」キャンペーンの感謝状で、ロータリーのポリオ撲滅活動に少なくとも1,500ドルを寄付したクラブに送られる感謝状です。

17-18 年度に達成されたことに対して贈られました。

